

1 単元名 たしざんとひきざん

2 単元の目標

- (1) (1位数) + (1位数) = (10以下の数) の計算や (10以下の数) - (1位数) の計算をすることができる。 (知識及び技能)
- (2) 合併、増加の場面をたし算、求残、求差の場面をひき算と考えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) たし算やひき算が用いられる場面に親しみをもって関わり、学ぶ楽しさを感じている。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

本学級は、5名が在籍しており、実態に合わせて個別学習やグループ学習をしている。A児は、注意を向け続けることが難しく、集中できる時間が短い、学習課題には一生懸命取り組もうとしている。文字や数字の読み書きはまだ難しいが、少しずつ興味が出てきて、ひらがなを確かめながら短い文を書いたり、ブロックと計算シートを使って計算したりすることに意欲的に取り組むようになってきた。

本単元では、たし算とひき算が用いられる場面を確認しながら、正しく計算する力を身に付けていく。児童が楽しく取り組めるゲームを行うことで学習への意欲を高めながら、計算の技能を習得させたいと考え、本単元を設定した。

指導にあたっては、1時間における学習活動をいくつか設定し、1つの活動に取り組む時間を短くして、本児が集中して学習活動に取り組めるようにする。また、たし算とひき算が用いられる場面の理解では、絵や動画などで示して関心をもたせたい。さらに、計算するときには、ブロック操作から指の使用、○を書いて、最初の数を頭においてなど、少しずつ具体物の操作からステップアップすることで、どの場でも正しく計算できるようにし、自信をつけさせたい。

4 児童の実態と個別目標

氏名	実 態	目 標
A児	<ul style="list-style-type: none"> ・注意を向け続けることが難しく、集中できる時間が短い。 ・1から順であれば、49まで数唱することができる。 ・ブロックと計算シートを使って計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(1位数) + (1位数) = (10以下の数) の計算や (10以下の数) - (1位数) の計算をすることができる。 ・着席して学習課題に取り組むことができる。【5 - (1)】

5 指導計画と評価 (7時間扱い)

時	主な学習内容・活動	評価
1 2 本時	・合併、増加の場面について立式して計算する。	・合併、増加の場面絵を見て、言葉かけを受けながら立式し、計算して答えを求めることができる。
3 4	・求残、求差の場面について立式して計算する。	・求残、求差の場面絵を見て、言葉かけを受けながら立式し、計算して答えを求めることができる。
5	・+や-の記号に注目して、正しく計算する。	・たし算やひき算の式から答えを求めることができる。
6 7	・場面絵を見て、たし算やひき算の絵本を作る。	・言葉かけを受けながら話をつくり、絵本に表すことができる。

6 本時の指導

(1) 個別目標

A 児：増加の場面が分かり、たし算の答えを正しく求めることができる。 (知識・技能)

(2) 準備・資料

ブロック、計算シート、タブレット、数字カード、ホワイトボード、ドラえもののブロック

(3) 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価☆自立活動に関する支援)
<p>1 本時の学習内容とめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①べんきょう 1 ・もんだいにチャレンジ ・けいさん (3 もん)</p> <p>②べんきょう 2 ・たしざんゲーム</p> </div> <p>2 文章問題を解く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>くるまが 5 だいとまっています。2 だいふえると、なんだいになりますか。</p> <p>(しき) $5 + 2 = 7$ (こたえ) 7 だい</p> </div> <p>3 計算練習をする。 ・たし算問題を 3 問解く。</p> <p>4 ゲームをする。</p> <p>① 裏返したからブロックから 1 人 6 個選ぶ。</p> <p>② 2 個でたし算をし、大きい答えになる組み合わせを決める。</p> <p>③ 決めた 2 個を見えるように出し、勝負する。</p> <p>④ 答えが大きい方が出したブロックをもらう。</p> <p>⑤ 3 回勝負し、持っているブロックの数が多の方が勝ち。</p> <p>5 タブレット学習をする。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>☆活動内容を分かりやすい言葉でボードに示し、説明する。【4- (1)】</p> <p>☆興味をもてるようプリントやゲームの用具など、具体物を示す。【2- (2)】</p> <p>・本時の課題に集中できるよう、問題文は印刷しておく。</p> <p>・分かっている数字を○で囲み、問いの文に波線を引く。</p> <p>・問題の場面をタブレットで示す。</p> <p>・キーワードを示し、たし算であることを確認する。</p> <p>・計算のときは、指をつかってよいことを知らせる。</p> <p>・計算に戸惑っているときは、ブロックと計算シートを渡す。</p> <p>◎増加の場面をたし算の式に表すことができたか。 (ワークシート)</p> <p>・指で計算しやすいよう、問題の数に配慮する。</p> <p>・答えの数字を書くときに戸惑っているときは、数字カードを示す。</p> <p>☆分からないときは、教師に伝えるように促す。【6- (5)】</p> <p>・興味をもって取り組めるよう、ドラえもののブロックを使用する。</p> <p>☆ブロックを立てておくことで指先の巧緻性を高める。 【5- (5)】</p> <p>・使用する数字は 5 までにして、指を使って計算できるようにする。</p> <p>・教師は裏返しのまま 2 個選んでおき、A 児が戸惑っているときはなるべく大きい数字を選ぶようアドバイスする。</p> <p>・教師の分も計算して答えを求めるように促す。</p> <p>・ホワイトボードにそれぞれの答えを書き記し、目で見て大きさを比べることができるようにする。</p> <p>☆「負けても平気」の合言葉で気持ちの整理ができるようにし、切り替えられたときに大いに褒める。【2- (2)】</p> <p>◎あきらめずに取り組み、正しく計算することができたか。 (観察・ワークシート)</p> <p>【目標を達成した児童の姿】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ワークシートへの記述 たし算の式に表し、答えを正しく求めている。</p> </div> <p>・教師と一緒にタブレットの準備をする。</p> <p>・集中力を考慮し、取り組みやすい既習事項について学習する。</p> <p>☆タブレット終了の予告をする。【2- (2)】</p> <p>・今日の学習のふりかえりを◎○△で表す。</p> <p>☆戸惑うときは、教師の問いかけに答える形で振り返りをする。【6- (2)】</p> <p>・次時の予告をし、興味をもたせる。</p>